

環境配慮個票

事業名	農地中間管理機構関連農地整備事業	地区名	影野	受益面積	10.1ha
関係市町村名	高岡郡四万十町	予定工期	令和3年度～令和6年度		
総事業費	254,000千円	R3年度以降事業量	254,000千円		
総事業量	区画整理工 10.1ha	R3年度以降事業量	区画整理工 10.1ha		
マスタープランの区分	環境配慮区域	自然公園等の指定	無		
既存資料による希少種の情報の有無	有 (R2 環境調査資料)				
周辺の環境	<p>影野地区のある四万十町は、高知県の南西部に位置し、年間平均気温は15℃程度、年間平均降水量は2,000mm～4,000mmを記録し、多種多様な生物が生息しています。四万十町東部（旧窪川町）は、中央部を南流する四万十流域の標高230mの高南台地に位置し、約2,000haの農地がある。また、四万十川及びその支流は、高知県でも有数アユの釣り場であり、多様な生物を育む貴重な生息環境である。</p> <p>本地区は、一級河川渡川水系仁井田川及び奥呉地川に展開する農地で、地形は平均地形勾配が1/45で河川沿いに形成された帯状の段丘面の農地である。</p>				
地区の環境の特性	<p>・概要 本地区は、一級河川渡川支流の仁井田川や奥呉地川沿いに点在する農地で、水稻のみならずショウガ、ネギなどの畑作が営まれている。</p> <p>・植物 現地調査を行った結果、確認した維管束植物は、99科349種であった。 奥呉地区では、イネ科草本主体の草地で、シバ、ギョウギシバ、チガヤなどにツルヨシ、ミドリハコベ、ツユクサなどが混在していた。やや湿ったところは、アシボソやササガヤが多く、ミゾソバ、タネツケバナなどが混生していた。 魚ノ川地区では、メヒシバ、キンエノコロ等イネ科草本主体で、湿ったところではアシボソ、ヌカキビ、イヌタデ等が多くなり、場所によりハキダメギク、タチスズメノヒエなどが混在していた。 影野地区は、一部果樹園として利用されているが、大部分は放棄畑地で、ススキ、クズ、チガヤ、ヒメムカシヨモギなどに覆われていた。 床鍋地区では、チガヤ、シバ、メヒシバ、コブナグサなどイネ科草本主体で、ジャノヒゲ、イヌタデなどが混在するなか、やや湿った場所にタカサブロウ、アゼムシロなどに加え、高知県レッドリスト（2020）で準絶滅危惧（NT）に指定されているコシロネが確認された。</p> <p>・動物 現地確認を行った結果 奥呉地区で確認された魚介類はカワムツ、ドンコ等4目5科6種、両生類・爬虫類は確認されなかった。 魚ノ川地区で確認された魚介類はカワムツ、ドンコ等4目4科6種、両生類・爬虫類はニホンイシガメ等2目2科2種であった。 影野地区で確認された魚介類はタカハヤ、アカザ等3目3科3種、両生類・爬虫類はトノサマガエル等1目1科2種であった。 床鍋地区で確認された魚介類はタカハヤ、カワヨシノボリ等4目4科4種、両生類・爬虫類はトノサマガエル等1目1科2種であった。 希少種はアカザ（環境省：絶滅危惧II類(VU)）、ドンコ（高知県：絶滅危惧II類(VU)）、トノサマガエル（環境省：準絶滅危惧(NT)）、ニホンイシガメ（環境省：準絶滅危惧(NT)）などの重要な種が生育・生息していることが確認された</p>				
配慮すべき事項	<p>①希少な動植物への配慮 ②ほ場整備地内における小動物の移動経路の確保 ③清流奥呉地川・仁井田川への工事施工に係る負担軽減</p>				
配慮方針	<p>①植物については、工事实施前に生育地の埋土種子を含む表土を保存し、整備後に生育場所に戻すか、類似環境を探し、移植などの措置を講ずる。また、生物については、工事实施の際に工事の影響がない生息適地に移動させる措置を講ずる。 ②小動物については、移動を阻害しないように、水路構造等を工夫する。 ③工事区域下流部に沈砂池を設けるなど工事中の濁水の流出を極力抑制する。</p>				